

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H04365

研究課題名(和文) 大メコン圏における中国の「一帯一路」構想の実態と影響に関する比較事例分析

研究課題名(英文) Comparative Analysis of China's Belt and Road Initiative in the Greater Mekong Subregion

研究代表者

渡辺 紫乃(Watanabe, Shino)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：10582637

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジア諸国の中で「親中国」とみなされるカンボジアとラオス、「対中強硬国」とみなされるベトナムの3カ国に焦点をあて、2013年秋に中国が「一帯一路」構想を表明して以来、3カ国において実施してきたインフラ整備、貿易、金融などの分野での活動実績を体系的に把握した。特に、カンボジアにおけるサーベイ調査と現地調査に基づき実証分析を行った結果、カンボジアを単純に「親中国」とみなすことは必ずしも正しくないこと、カンボジア人の対中認識は居住地、年齢、性別、エスニックグループや収入などの属性によって大きく異なることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、①学術的研究が比較的少ないカンボジアの対中認識や対外関係について、サーベイ調査や現地視察をもとに実証分析を行い、中国の対外進出が好意的・非好意的に認識される条件を解明したこと、②中国の対外投資・援助受入国や日本への政策インプリケーションを提供したこと、③日本と学術協力が特に手薄なカンボジアの研究者と共同で調査や研究、セミナーを行うことで、中長期的な研究ネットワークを築くことができたこと、④ベトナムやラオス、タイ、シンガポールの研究者との研究交流を通じて、東南アジアの視点を踏まえて中国の対外進出を分析できたことにある。

研究成果の概要(英文)：This study examined Chinese activities in the fields of infrastructure development, trade, and finance in Cambodia and Laos, both of which are often characterized as "pro-China," and Vietnam, which is frequently seen as "anti-China" since China announced the "Belt and Road Initiative" in the fall of 2013. Our field surveys and empirical analyses of Cambodia uncovered a diverse set of perceptions, challenging the simplistic notion of Cambodia as pro-China." We found that Cambodians' perception of China is complex and influenced by factors such as their place of residence, age, gender, ethnic group, and income.

研究分野：国際関係論

キーワード：一帯一路 中国 カンボジア 世論 中国・カンボジア関係

1. 研究開始当初の背景

（1）「エコノミック・ステイトクラフト」としての中国の「一帯一路」構想

中国は台頭する国力の高まりを背景に様々な経済的手段を駆使して自国の目的を達成しようとしている。2013 年秋に習近平国家主席が提唱した「一帯一路」構想や 2015 年 12 月に中国主導で創設したアジアインフラ投資銀行（AIIB）は、中国の経済的手段による国家目的達成のための動きである。しかしながら、中国を始めとして、国家が実際には軍事的手段よりも経済的手段をより頻繁に使うにもかかわらず、「エコノミック・ステイトクラフト（economic statecraft）」、すなわち経済的手段が国家目的の達成に与える影響の研究は相対的に少なかった。

そこで、本研究は、①中国はそもそも国家目的達成のために経済力を使いこなしているのか、②中国の経済力は政治や外交、安全保障上の目的の達成に有効であるときもあればそうでないときもあるが、この違いはどこから来るのかという問題意識のもと、中国が経済力を効果的に行使できるか否かは、中国側の要因だけでなく、相手国の国内要因や中国との関係性によって規定されることの認識に立ち、カンボジア、ラオス、ベトナムの 3 ヶ国における中国の進出状況を分析することにした。

（2）カンボジア、ラオス、ベトナムにおける中国の「一帯一路」構想の実態と対中認識の把握

東南アジアは「一帯一路」構想における最重要地域である。なかでも、対外行動や多国間協議の場で中国に同調する傾向にあるカンボジアとラオスは「親中国」であるとみなされ、両国内の対中認識には十分な注目が集まっていなかった。しかしながら、研究代表者と研究分担者が 2018 年 3 月に行った事前調査では、中国からの多額の投資と労働者の流入による反発が強いこと、カンボジアやラオス国内での中国に対する見方は必ずしも一枚岩ではなく、中央政府レベルでも省庁ごとに考え方の相違があること、両国の政策決定者による公式見解と一般の世論、メディア統制の影響を受けている世論と個人レベルでの見方には差があることが分かった。そこで、「親中国」である両国の対中認識をより詳細に分析することとした。他方、ベトナムは中国と同様に共産党が主導する国家であり、ベトナム共産党と中国共産党の紐帯は歴史的に極めて強いが、2010 年代半ば以降の中国による南シナ海への積極的な海洋進出に対して強い反発を示してきた「対中強硬国」である。ベトナムの世論も一様に「反中」であるかどうかは検討に値する。そこで、本研究では、カンボジア、ラオス、ベトナムにおいて、2013 年以來の中国の活動を把握、分析し、その影響や対中認識の変化を解明することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、①中国が 2013 年秋以來 3 ヶ国において実施してきたインフラ整備、貿易、金融、人材育成の各分野での活動実績を体系的に把握すること、②「親中国」や「対中強硬国」というラベルで見過ごされがちな 3 ヶ国の複雑な対中認識と対中姿勢、国内状況や対外政策について現地調査や実証分析をもとに明らかにすること、③ 3 ヶ国における中国の影響を多面的に分析し、中国がいかなる場合に経済力を国家目的の達成のために効果的に使うことができるのかを解明することによって、中国の対外進出国や日本への政策インプリケーションを導くことである。

中国の「一帯一路」構想は、政策、インフラ、貿易、金融、人材育成の 5 分野での協力であるが、これまでは個別分野の分析が中心であり、ディシプリンを超えた研究者による共同研究はまだ少ない。そこで、④中国の政治・外交分野、東南アジアや国際経済、開発経済学といった複数の学問分野の研究者による学際的研究を行い、定性的アプローチと定量的アプローチの両方の方法論を用いた包括的な研究を行うことも目的とした。

さらに、⑤日本と学術的協力が特に手薄なカンボジアの研究者と共同研究を行い、現地調査、資料やデータの収集と分析、研究会などを通じ、中長期的な研究ネットワークへと成長させること、⑥ベトナムやラオス、タイやシンガポールなどの研究者とも研究交流を行うことで、中国と「一帯一路」構想の対象国の双方の視点を踏まえた研究を目指した。

3. 研究の方法

本研究は 2019 年度から 2023 年度までの 5 年計画で、カンボジア、ラオス、ベトナムの 3 ヶ国での現地調査を中心に研究を進める予定であった。しかし、2019 年 12 月の中国・武漢での新型コロナウイルスの感染流行と 2020 年以降の世界的感染拡大により、2019 年 12 月にベトナムと

カンボジアで現地調査を行った後、2022年12月にカンボジアに現地調査に行くまでのほぼ3年間、海外に現地調査に行くことが出来なかった。そこで、新型コロナウイルスの感染拡大期間中も現地の協力者を通じた調査が可能であったカンボジアに絞って、対中認識の調査を行うことにした。

具体的には、(1) 日本語・英語・中国語・クメール語での文献の収集と調査、(2) 国内外での研究者・専門家との意見交換と政策担当者などへの聞き取り調査、(3) 対面とオンラインの研究会や国際学会、国際会議での報告、論文執筆などによる研究成果の発信とフィードバックの取得によって研究を進めた。

(1) 文献・資料調査

上智大学や埼玉大学の図書館や国会図書館などでの文献調査に加え、新聞記事やジャーナル記事などの日本語や英語の各種データベース、中国語の中国学術文献オンラインサービス、国内外のシンクタンクや大学などの研究機関、世界銀行や国際通貨基金、アジアインフラ投資銀行(AIIB)、新開発銀行(NDB)、国連などの国際機関のウェブサイトを活用して、幅広く資料やデータ収集を行った。

(2) 聞き取り調査と意見交換

主にメコン地域圏や中国を研究対象とする国内外の大学やシンクタンクなどの研究者、日本の外務省や経済産業省、文部科学省などの政策関係者、JICAやJBICなどの国際開発援助や投融資の実務家、金融機関やコンサルティング会社、商社、製造業などの企業関係者、大使館員への聞き取り調査や意見交換、研究代表者と研究分担者、研究協力者らによる研究会を開催した。

また、カンボジアのプノンペン、シハヌークビル、シェムリアップ、ポイペト、ベトナムのハノイ、シンガポール、米国のワシントンDCで現地調査を行い、大学やシンクタンクなどの研究者・専門家、政府関係者や企業関係者などを対象に聞き取り調査や意見交換を行った。

さらに、ラオスのラオス国立大学やタイのチュラロンコーン大学、米国のスティムソンセンターの研究者らとオンラインで研究会を実施した。

(3) 研究成果の発信

カンボジアの王立プノンペン大学やCambodia Development Resource Institute、ベトナム社会科学学院、国際学会であるInternational Studies Associationの年次大会、米国のシンクタンクや大学での会議やセミナーなどで研究報告を行った。また、研究成果を日本語や英語の論文などにまとめ、国内外の学会誌などに発表した。さらに、研究成果の一部を英語の論文にまとめ、査読付きの国際ジャーナルに投稿済みである。今後も研究成果を英語の論文にまとめ、国際ジャーナルなどに投稿し、発信を続ける予定である。

4. 研究成果

カンボジアの中国に対する認識は一枚岩ではなく、以下の通り、回答者の年齢、性別、収入、居住地などの属性により異なること、その背景には多様な要因があること、カンボジアの対外認識は時代とともに変化していること、中国のエコノミック・ステイトクラフトには限界があることなどがわかった。

(1) カンボジアの対中認識の概要

- ① 中国系カンボジア人は、カンボジアに対する中国の政治的および社会経済的影響が強いと認識する傾向にある。
- ② 教育水準が高い人(高等教育修了者)は、カンボジアに対する中国の政治的および社会経済的影響が強いと認識する傾向にある。
- ③ 回答者の大多数は、カンボジアにおける中国のプレゼンスの高まりを肯定的に認識している。特に、中国からの新型コロナウイルス感染症対策のための投資と支援は、カンボジアにおける中国に対する肯定的な認識に貢献している。
- ④ 中国人が関与する犯罪と治安の問題は、カンボジアにおける中国に対する否定的な認識の原因となっている。
- ⑤ プノンペンとプレア・シハヌーク在住の回答者は、中国のカンボジアに対する政治的および社会経済的影響に対する否定的な認識を持つ傾向にある。
- ⑥ 中国のプレゼンスの高まりは、カンボジアにおける中国に対する肯定的な認識を生み出しているが、中国からの投資が集中している地域の回答者は中国のプレゼンスの高まりの副作用を強く認識している。
- ⑦ 中国系カンボジア人であることが自動的に中国に対する肯定的な認識につながるわけでは

ない。

(2) カンボジアの対中認識の背景

- ① カンボジアにおける肯定的な対中認識に影響を与える要因としては、回答の多い順に、中国の投資、新型コロナウイルス感染症対策への支援、対外援助、雇用創出、融資などである。
- ② カンボジアにおける否定的な対中認識に影響を与える要因としては、回答の多い順に、中国関連の犯罪、環境破壊、現地文化の軽視、中国人の振る舞い、金銭志向の態度などである。

(3) カンボジアにおける中国の「一帯一路」に対する認識

カンボジアにおける中国の「一帯一路」の認知度は低い。「一帯一路」が何かを知っている回答者は全体の 22.2%であった。地域別にみると、プノンペン在住の回答者では 28.7%、シハヌークビル在住者では 40.0%、シェムリアップ在住者では 29.6%であった。

(4) カンボジアの対外認識の変遷

カンボジア人の主要国に対する認識は時代とともに変化している。以下の表が示す通り、カンボジア人は時代が経つにつれ、中国をカンボジアにとって開発や経済面での重要なパートナーと認識するようになったことがわかった。

時期	強い (%)	中程度(%)	弱い(%)	なし(%)
1990 年代	14.5	48.6	28.8	8.0
2000 年代	18.0	60.5	19.2	2.3
2010 年代	36.5	52.1	10.2	1.2

以上のように、カンボジアの対中認識は一枚岩ではなく、単純に「親中」とであるとみなすことは実態に合わないことがわかった。

(5) 中国のエコノミック・ステイトクラフトの限界

中国は長年、カンボジアに多額の投資や融資、援助を行ってきた。しかし、金額の大きさやコミットメントの歴史の長さは、必ずしも対中認識にプラスに働くわけではない。また、「一帯一路」のプロジェクトをやればやるほどカンボジアが「親中国」になるわけでもない。むしろ、中国のカンボジアでの投資や融資、援助のやり方や中国人のカンボジアでの振る舞い方次第で、中国の対外進出がかえって対中認識に悪影響を及ぼす場合がある。

本研究は、中国の対外進出の短中期的な影響を明らかにすることで、どのような条件下で対外進出が当該国に対してエコノミック・ステイトクラフトとして機能しうるかという政策処方提示することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 渡辺紫乃	4. 巻 80
2. 論文標題 「グローバル展開する中国主導の地域枠組み——中国・中央アジアサミットを読み解く」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 120-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okada, K., Samreth, S.	4. 巻 -
2. 論文標題 "Do Political Regimes Matter for Technology Diffusion?"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Knowledge Economy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s13132-023-01266-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 渡辺紫乃	4. 巻 50
2. 論文標題 「中国のエネルギー安全保障—石油をめぐる中国の対応—」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『国際安全保障』	6. 最初と最後の頁 55-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 渡辺紫乃	4. 巻 705
2. 論文標題 「『一帯一路』構想の現在」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 サムレト・ソワンルン、藤川清史	4. 巻 2
2. 論文標題 「カンボジアにおける新型コロナウイルス感染症の影響と対応」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『愛知学院大学経済研究所所報』	6. 最初と最後の頁 160-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34513/00003471	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Shino Watanabe	4. 巻 28
2. 論文標題 “China’s Financial Statecraft and International Financial Security”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Policy Brief, Robert Schuman Centre, European University Institute	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2870/431917	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Okada, K. and Samreth, S.	4. 巻 22
2. 論文標題 “Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Economics of Governance	6. 最初と最後の頁 23-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10101-020-00246-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okada, K. and Samreth, S.	4. 巻 103728
2. 論文標題 “Do Political Regimes Matter for Technology Diffusion?”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 MPRA Paper	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 渡辺紫乃	4. 巻 62
2. 論文標題 「習近平政權の中国と国際秩序－「参加者」から「改革者」、「建設者」へ－」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『防衛学研究』	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 渡辺紫乃	4. 巻 629
2. 論文標題 「アジアインフラ投資銀行の創設と国際開発金融秩序」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東亜』	6. 最初と最後の頁 92-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 渡辺紫乃	4. 巻 47-1
2. 論文標題 「「一帯一路」構想の変遷と実態」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際安全保障』	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okada, K. and Samreth, S.	4. 巻 96657
2. 論文標題 “Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 MPRA Paper	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Samreth, S., Sanchez-Martin, M. and Ly, S.	4. 巻 8893
2. 論文標題 “Dollarization Dilemma: Price Stability at the Cost of External Competitiveness in Cambodia”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 World Bank Policy Research Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計57件（うち招待講演 17件／うち国際学会 13件）

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Regional Diplomacy: Managing China ”
3. 学会等名 2024 Canada-Japan Symposium on Peace and Security Cooperation, Ottawa, Canada.
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Recent Developments in Japan-China Relations ”
3. 学会等名 Asian Security Issues Lecture Series 2024, College of International Affairs, National Chengchi University, Taipei, Taiwan.
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 渡辺紫乃
2. 発表標題 「経済安全保障と東アジア情勢」
3. 学会等名 国際社会経済研究所（IISE）社会課題探索Webinar、国際社会経済研究所、東京。
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Shino Watanabe, Sovannroeun Samreth, and Penghuy Ngov
2. 発表標題 "China's Belt and Road Initiative and Cambodian Perceptions"
3. 学会等名 Cambodia Development Research Institute (CDRI) Research Seminar, Phnom Penh, Cambodia.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Analysis of China’s Current Situation”
3. 学会等名 JIIA-SIGNAL Dialogue, Japan Institute of International Affairs, Tokyo.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡辺紫乃
2. 発表標題 「一带一路の10年：変容と展望」
3. 学会等名 霞山会東亜フォーラム、霞山会、東京。（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡辺紫乃
2. 発表標題 「中国の海外経済進出の現状とインド太平洋の安全保障」
3. 学会等名 日本戦略研究フォーラム総合安全保障勉強会、日本戦略研究フォーラム、東京。（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe and Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "A New Perspective of Global Perception of China: Findings from a Survey in Cambodia"
3. 学会等名 Cambodia Development Resource Institute (CDRI) Research Seminar, Phnom Penh, Cambodia.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “China ’s Global Development Initiative and Its Impact on International Development and Beyond ”
3. 学会等名 International Studies Association (ISA) Asia-Pacific Region Conference, Waseda University, Tokyo. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Future of Regional Security Architecture ”
3. 学会等名 The U.S.-China-Japan-Republic of Korea Track II Conference, The National Committee on American Foreign Policy ’s Forum on Asia-Pacific Security, New York, U.S.A. (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe and Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "Perception of China: Findings from a Survey in Cambodia"
3. 学会等名 Vietnam Academy of Social Sciences Workshop, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "Cambodia ' s Economic Growth and Development and Perception of China from a Survey in Cambodia"
3. 学会等名 Vietnam Academy of Social Sciences Workshop, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Penghuy Ngov
2. 発表標題 "Overview of FDI Inflows and SEZ Development in Cambodia"
3. 学会等名 Vietnam Academy of Social Sciences Workshop, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masato Noda, Yuto Kitamura, Yasushi Hirosato, Takayo Ogisu, Akemi Ashisa, Chhinh Sitha, and Samsideth Dy
2. 発表標題 "Cambodia Teacher Reform and Education Policy Responding to Crisis: Toward SDGs in Post/with Corona Society ”
3. 学会等名 Roundtable at 13th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia (CESA). (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Perception of China: Findings from a Survey in Cambodia"
3. 学会等名 Seminar at the Institute for International Studies and Public Policy, Royal University of Phnom Penh, Phnom Penh, Cambodia.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe and Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "Perception of China: Findings from a Survey in Cambodia"
3. 学会等名 International Studies Association (ISA) 2023 Annual Convention, Montreal, Canada. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Japan's Economic Security in the Indo-Pacific"
3. 学会等名 School of International Relations, Getulio Vargas Foundation (FGV), Sao Paulo, Brazil (online). (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Infrastructure Development with Chinese Characteristics"
3. 学会等名 U.S.-Japan Cooperation in the World Series: U.S.-Japan Leadership in Free and Open Infrastructure, The Maureen and Mike Mansfield Foundation, Washington, DC, U.S.A. (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡辺紫乃
2. 発表標題 「習近平政権期の中国外交と日中関係」
3. 学会等名 2022年度東アジア情勢フォーラム「中国と北東アジア等身大の中国との関係を考える」島根県立大学浜田キャンパス、島根県。(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "New Trade Agreements in Asia"
3. 学会等名 15th Berlin Conference on Asian Security: Asia's Age of Minilateralism?, Stiftung Wissenschaft und Politik (SWP)/ German Institute for International and Security Affairs, Berlin, Germany. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "China's 'Belt and Road Initiative' and Its Impact on Regional Order"
3. 学会等名 Guest Lecture, George Washington University, Washington, DC, U.S.A.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Japan's Geostrategic Challenges in the Indo-Pacific"
3. 学会等名 Webinar on the Geostrategic Challenges Facing Japan, Canada and the United States in Asia, The Japan Society, Toronto, Canada (online). (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "China's Development Finance: Challenges and Opportunities"
3. 学会等名 Webinar on U.S.-Japan Leadership in Free and Open Infrastructure, The Maureen and Mike Mansfield Foundation, Washington, DC, U.S.A. (online). (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan’s Geostrategic Challenges in the Indo-Pacific and Japan-EU Cooperation”
3. 学会等名 Policy Dialogue, The Rise of the Indo-Pacific: Enhancing EU-Japan Geo Strategic Cooperation, EPC Speaking Invitation, European Policy Center, Brussels, Belgium (online). (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan’s Initiatives to Secure Supply Chains and Its Key Challenges”
3. 学会等名 Fourth edition of the Asia & Europe Initiative: Stability and Security in the Indo-Pacific, Italian Institute for International Political Studies, Milano, Italy (online). (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺紫乃
2. 発表標題 「『一帯一路』構想の現在」
3. 学会等名 『国際問題』ウェビナー「習近平体制の現状と課題」（2022 年 2 月号）を論じる、日本国際問題研究所、東京（オンライン）。(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "Microfinance Borrowers: Findings and Policy Implications from a Household Survey in Cambodia”
3. 学会等名 Cambodia’s Annual Microfinance Conference, Siem Reap, Cambodia. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "Financial Literacy Among Microfinance Borrowers: Findings and Policy Implications from a Household Survey in Cambodia"
3. 学会等名 JICA Ogata Research Institute Lunch Seminar, Tokyo, Japan (online).
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 "Impact of the Interest Rate Ceiling on Credit Cost, Loan Size, and Informal Credit in the Microfinance Sector: Evidence from a Household Survey in Cambodia"
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference, Singapore. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺紫乃
2. 発表標題 「中国の国際開発金融の実態と課題」
3. 学会等名 米国笹川平和財団ワシントン研究グループ勉強会、ワシントンDC、米国（オンライン）。
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Japan and Free and Open Indo-Pacific"
3. 学会等名 The University of Integration of the Americas (UNIDA), Asuncion, Paraguay. (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 "Japan and Free and Open Indo-Pacific"
3. 学会等名 Diplomatic and Consular Academy of the Ministry of Foreign Affairs of Paraguay, Asuncion, Paraguay. (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “China ’ s 'Belt and Road Initiative' and Its Implications ”
3. 学会等名 Guest Lecture, George Washington University, Washington, DC, U.S.A.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “ Belt and Road Initiative and Japan ’ s Response ”
3. 学会等名 Guest Lecture, Assessment of China ’ s Belt and Road Initiative Project, University of Virginia, Charlottesville, U.S.A.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 “ Impacts of COVID-19 in Cambodia and National and International Responses ”
3. 学会等名 AGU/ASSIA and RUPP Joint Seminar on Cambodia/Japan collaboration, Aichi Gakuin University, Aichi (online).
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan-China Relations, Free and Open Indo-Pacific, Chinese Presence in Africa”
3. 学会等名 Public Lecture, The National Defense Institute, Lisbon, Portugal.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan-China Relations, Free and Open Indo-Pacific, Chinese Presence in Africa”
3. 学会等名 Conference, Military Academy Research Center, Military Academy, Lisbon, Portugal.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan-China Relations and Free and Open Indo-Pacific”
3. 学会等名 Conference, Press Room of Montecitorio Palace, Chamber of Deputies, Rome, Italy.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan-China Relations and Free and Open Indo-Pacific”
3. 学会等名 Public Lecture, Italian Institute for International Political Studies, Milano, Italy.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Japan-China Relations and Free and Open Indo-Pacific”
3. 学会等名 Public Lecture, Pavia University, Pavia, Italy.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Belt and Road Initiative (BRI) and Free and Open Indo-Pacific (FOIP)”
3. 学会等名 International Symposium: Peace and Stability in the Indo-Pacific Region, Research Centre for Eastern and North Eastern Regional Studies (CENERS-K), Kolkata, India. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “China’s Infrastructure Development and Finance”
3. 学会等名 Seminar, Institute for Northeast Asian Studies, Vietnam Academy of Social Sciences, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “China’s Maritime Infrastructure Development”
3. 学会等名 International Symposium: New World Order and Indo-Pacific Initiative, The Japan Forum on International Relations, Tokyo, Japan. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “New Challenges in the Indo-Pacific Regional Order”
3. 学会等名 The 4th International Symposium on China-Japan-ROK Security Cooperation, Changsha, China. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Sino-Japanese Relations and the Indo-Pacific Vision”
3. 学会等名 Working Lunch, Stiftung Wissenschaft Politik (SWP), Berlin, Germany.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Chinese Concept and Funding for Infrastructure in Southeast Asia”
3. 学会等名 Public Lecture, Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin, Berlin, Germany.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Sino-Japanese Relations and the Indo-Pacific Vision”
3. 学会等名 Symposium, Consejo Argentino Para Las Relaciones Internacionales (CARI), Buenos Aires, Argentina.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Sino-Japanese Relations and the Indo-Pacific Vision”
3. 学会等名 Symposium, San Martin University, Buenos Aires, Argentina.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “China’s Infrastructure Development in the Indo-Pacific Region: Challenges and Opportunities”
3. 学会等名 Luncheon Seminar, Sasakawa USA, Washington, D.C., U.S.A.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Sino-Japanese Relations and the Indo Pacific”
3. 学会等名 Seminar, Institute for Northeast Asian Studies, Vietnam Academy of Social Sciences, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Sino-Japanese Relations and the Indo Pacific”
3. 学会等名 Roundtable, Diplomatic Academy of Vietnam, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Watanabe
2. 発表標題 “Challenges for the Regional Order in the Indo-Pacific”
3. 学会等名 Australia-Indo-Japan Trilateral 2019: Leadership, Partnership and ASEAN Centrality in the Emerging Indo-Pacific, Brisbane, Australia. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 “Chinese Aid and Investment in Mekong Region”
3. 学会等名 Seminar, Institute for Northeast Asian Studies, Vietnam Academy of Social Sciences, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 “Chinese Aid and Investment in Mekong Region”
3. 学会等名 Roundtable, Diplomatic Academy of Vietnam, Hanoi, Vietnam.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 “Dollarization Dilemma: Price Stability at the Cost of External Competitiveness in Cambodia”
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference, Singapore. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 “Livelihood of the Poor in Cambodia: Evidence from a Study of Financial Diaries in a Commune”
3. 学会等名 JICA-RI Lunch Seminar, Tokyo, Japan.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sovannroeun Samreth
2. 発表標題 “Livelihood of the Poor in Cambodia: Evidence from a Study of Financial Diaries in a Commune”
3. 学会等名 JICA-RI Lunch Seminar, Tokyo, Japan.
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 Samreth, S., Okuda, H., and Ojima, Y.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 224
3. 書名 “Development and Structure of Dollarization in Cambodia,” in Okuda, H. and Chea, S. eds., Cambodian Dollarization: Its Policy Implications for LDC’s Financial Development, pp.10-37.	

1. 著者名 Will Brehm, Yuto Kitamura, Yasushi Hirosato, Anna Zongolowicz, Bich-Hang Duong, Rosalie Metro, Somsanit Larvankham, Thongdeuane Nanthanavone, and Vong-on Phuaphansawat	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Teachers College Press	5. 総ページ数 216
3. 書名 "Finding Unity in Diversity: Public Identity Patters in Lao PDR", in Memory in the Mekong: Regional Identity, Schools, and Politics in Southeast Asia, pp.153-176.	

1. 著者名 Italian Institute for International Political Studies, Shino Watanabe, Rory Medcalf, Ryo Sahashi, Shada Islam, Yue Yang, Axel Berkofsky, Francoise Nicolas, Jagannath Panda, Kristi Govella and Alessia Amighini	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Italian Institute for International Political Studies	5. 総ページ数 80
3. 書名 Stability and Security in the Indo-Pacific, Asia & Europe Initiative: Pathways to Recovery in Post-Pandemic Asia (“Japan ’ s Initiatives to Secure Supply Chains and Its Key Challenges”) , pp.38-45.	

1. 著者名 広瀬佳一、小笠原高雪、小尾美千代、渡辺紫乃他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 233
3. 書名 『よくわかる国際政治』（「中国——激動の「大国」」）164-165頁。	

1. 著者名 広瀬佳一、小笠原高雪、小尾美千代、渡辺紫乃他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 233
3. 書名 『よくわかる国際政治』（「コラム-13 『一帯一路』」）156-157頁。	

1. 著者名 Kuoch, S. and Samreth, S.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Chulalongkorn University Press	5. 総ページ数 246
3. 書名 “Labour Force and Labour Market in Cambodia: Facts, Challenges and Policy Actions” in Bunnang, S. and Srisangnam, P. eds. Human Resource Landscape in Mainland ASEAN, pp.1-23.	

1. 著者名 日本国際問題研究所編、高原明生、小嶋華津子、西本紫乃、角崎信也、李昊、渡辺紫乃他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人日本国際問題研究所	5. 総ページ数 348
3. 書名 「中国のインフラ・ファイナンス―国家開発銀行、中国輸出入銀行、アジアインフラ投資銀行と新開発銀行の融資実績比較―」日本国際問題研究所編『中国の対外政策と諸外国の対中政策』	

1. 著者名 日本国際フォーラム編、伊藤剛、佐藤考一、山田吉彦、都留康子、畠山京子、渡辺紫乃	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人日本国際フォーラム	5. 総ページ数 -
3. 書名 「中国の海洋インフラ投資―中国企業による海外港湾会社への投資動向―」 『「新段階の日本の海洋戦略―開かれ安定した海洋に向けて―」研究会最終報告書』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

—

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	廣里 恭史 (Hirosato Yasushi) (40262927)	上智大学・グローバル教育センター・教授 (32621)	
研究分担者	サムレト ソワンルン (Samreth Sovannroeun) (90614371)	埼玉大学・人文社会科学部研究科・准教授 (12401)	
研究分担者	NGOV Penghuy (Ngov Penghuy) (80528167)	名古屋大学・アジアサテライトキャンパス学院(国際開発)・特任准教授 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カンボジア	王立プノンペン大学	Cambodia Development Resource Institute		